

災害復興

# 新潟県中越沖地震の復興支援への取り組み

「……新潟県柏崎市……」  
新潟県中越沖地震により大きな被害を受けた柏崎市の早期復興を目指し、阪神・淡路大震災や福岡県西方沖地震での復興支援とまちづくりで培ったノウハウを生かし、支援活動に取り組んでいます。

## 災害復興支援と地方都市再生

柏崎市から被災地区の復興推進に向けた支援を受け、UR都市機構では復興支援プロジェクトチームを発足させ、次のような現地コーディネートを展開しています。

### ①復興公営住宅の早期整備

震災による被災者のための復興公営住宅を早期に整備できるように、複数の建設候補地における配置計画などの検討を行いました。また、高齢者支援施設の導入や風雪対策など地域に合った仕様に配慮した設計業務を推進し、この成果を受け、本年10

月には柏崎市が建築工事に着手しました。

会館の建設と防災公園の整備などについて検討を行い、平成24年春の新市民会館の開館に向けた調整を進めています。

### ②柏崎駅周辺まちなか再生

柏崎市の顔にふさわしい街を目指し、震災前から検討されていた「まちなか活性化方策」をふまえ、新たに震災からの復興や防災などの視点を追加して、柏崎駅周辺工場跡地の活用方策、整備方針の検討の支援を行いました。

震災により特に大きな被害を受けたえんま通り商店街再生に向けた支援については、新潟県、柏崎市と連携し、商店街振興会、町内会及び地権者からなる復興協議会において検討されている「まちづくりの整備方針」を具現化するための検討を支援しています。

### ③防災拠点の整備

日本石油加工跡地と既存の都市公園について、災害時に被災者などへの支援を行う救援機能を備えた市民

### ④えんま通り商店街の再生

地すべりなどにより多くの建物が倒壊した番神二丁目地区では、脆弱な道路などの改良による早期の住宅再建をめざし「小規模住宅地区等改良事業」を柏崎市に提案し、整備計画案を作成しました。この成果を受け、今年度から柏崎市が当該事業に着手しています。

### ⑤被災住宅地の復興

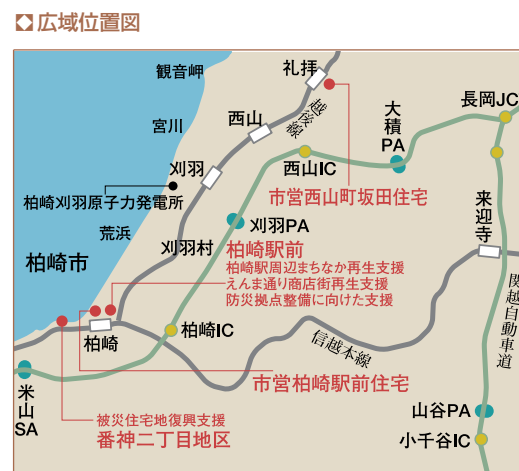
これらの復興支援コーディネート成果は柏崎市震災復興計画(平成20年3月柏崎市策定)に重点プロジェクトとして位置づけられ、復興公営住宅が着工されるなど、復興に向けた動きが始まっています。



新潟県中越沖地震(震度6強)における柏崎市の被害は、死傷者1,600人以上、住宅被害28,000棟以上。概算被害額は2,200億円に及んだ。写真は番神二丁目地区



上/日本石油加工跡地。災害時に被災者などへの支援を行う救援機能を備えた市民会館を建設し、隣接する駅前公園を防災公園として再整備する  
右/市営柏崎駅前住宅建設予定地(桑山木材跡地)には140戸を建設する予定。市営西山町坂田住宅(旧松風荘跡地)には30戸建設される



郊外環境

# 環境共生都市の実現を目指す活動

## 絶え間なく続く自然との共生活動

八王子みなみ野シティは、平成9年にまちびらきしたニュータウンです。当地区では、自然との共生を掲げた「環境共生都市」づくりとして、開発による環境への負荷を抑えるための取り組みを行っています。もともと、この地は、里山、河川を有する恵まれた自然環境にありましたが、この自然を開発に合わせて効果的にネットワークさせ、公園・緑地

等の整備に積極的に取り組んできました。また、緑の保全のため、造成時には樹木の移植や根株の移植、表土保全、復元緑化、二次林の整備などを行っています。さらに、開発に伴う水系への影響をできる限り少なくし、開発前の水環境を保全するために、「水循環再生システム」を地区全体に導入し、兵衛川の流量を安定させています。

一方、UR都市機構がコミュニティ育成の取り組みとして立ち上げ、現在では住民の自主活動に発展した「みなみ野自然塾」が、里山活動、生態系の保全活動に取り組んでいます。また、地区内の公園・緑地では、市の公園アドプト制度を活用した住民主体の維持管理が行われています。

このほか、生態系を維持・再生する取り組みとして、ホタルや水生生物が生息できる環境づくりや、環境への負荷の低いまちづくりを目的としたリサイクルの推進、自然エネルギー利用の推進など、自然と共生するための多岐にわたる活動が展開されています。



水循環再生システム

事業概要	
事業名称	八王子市都市計画事業 南八王子土地区画整理事業
施行者	UR都市機構
施行面積	約394.3ha
事業期間	昭和63年度～平成24年度
計画戸数	8,650戸
計画人口	28,000人



板谷戸公園での田植えの様子



里山での落葉集め



八王子みなみ野シティの美しい家なみ

広域位置図

